

県中国研だより

令和6年度

<発行>
鹿児島県中学校
国語教育研究会
集会広報委員会

編集責任者
新田由美子

令和六年度 鹿児島県中学校国語教育研究会

夏季研修会について

期日 令和六年八月十九日(月)

会場 勤労者交流センター(よかセンター)

内容 鹿児島国際大学 千々岩弘一先生による講演等 を予定

案内は各中学校に配布いたします。当日は懇親会も計画しております。多くの先生のご参加をお待ちしております。

第五十三回鹿児島県中学校

国語教育研究大会大島大会

今年度の県大会は、十一月に奄美市で開催されます。研究テーマ「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の**一体的な充実を通して「こ**と**ばの力**」を高める**国語科教育の創造**をもとに、個が自律的に学ぶ授業づくりに挑戦します。みなさまのご参加をお待ちしております。

期日 令和六年十一月二十九日(金)

会場 奄美市立金久中学校

主な内容

「研究授業・授業研究」

・教材名「不便」の価値を見つめ直す」

(光村図書一年)「予定」

・授業者 武石 健汰 教諭(金久中学校)

「講演」 小崎 誠二氏 (奈良教育大学 准教授)

詳細は、九月頃に各中学校に配布する案内をご覧ください。

羅針盤

学び続ける教師のために

県中国研会長(鹿児島市立長田中学校長)

奥山 茂樹

先日、鹿児島県中学校国語教育研究会「令和六年度第一回代議員会」が開催された。本会議は、事務局、各地区の代議員、顧問で構成され、前年度の会務や決算の報告、今年度の活動計画、予算、地区の動向等について承認、確認する。四十名程度の参加をいただき、今年度会長をさせていただくことについて了承を得た。

挨拶の中で、参加された方に三点のお願いをした。まず、学びを深め、実践を積み重ねる一年にしようということである。今年度は九州・全国大会は本県で開催されない。何かのために仕上げる過程はないのだ。だからこそ基礎を固め、力を蓄えたい。折しも、未来社会を見据え、子供に求められる資質能力も変化する中、学校や学びの在り方も変わりつつある。学習者主体の授業をいかに展開するか。まずは観の転換が必要であろう。

次に、組織の基礎固め、会員の拡充である。悩みを抱えつつ試行錯誤している教員は少なくない。そんなとき寄り添いながら、ともに考える、そんな存在でありたい。本会のホームページも学びを深められるようになってきている。ぜひご覧いただきたい。

最後に、本会の特徴でもある顧問の力、先人の知恵に学ぼうということである。顧問として大学や教育委員会、歴代の会長をされた方々にご参加いただいている。教育は人なり。教育や国語への思い、確かな理論と実践、何よりもその人間性に学ぶところは大きい。

今年度は、県大会が奄美大島にて開催される。会場校の金久中だけでなく、大島地区、県全体でバックアップして当日を迎えたいと考えている。関わった方々にどのような学びがあるか、当日が楽しみである。